

1. 本報告書について

1-1 子育て家族防災の取り組みについて

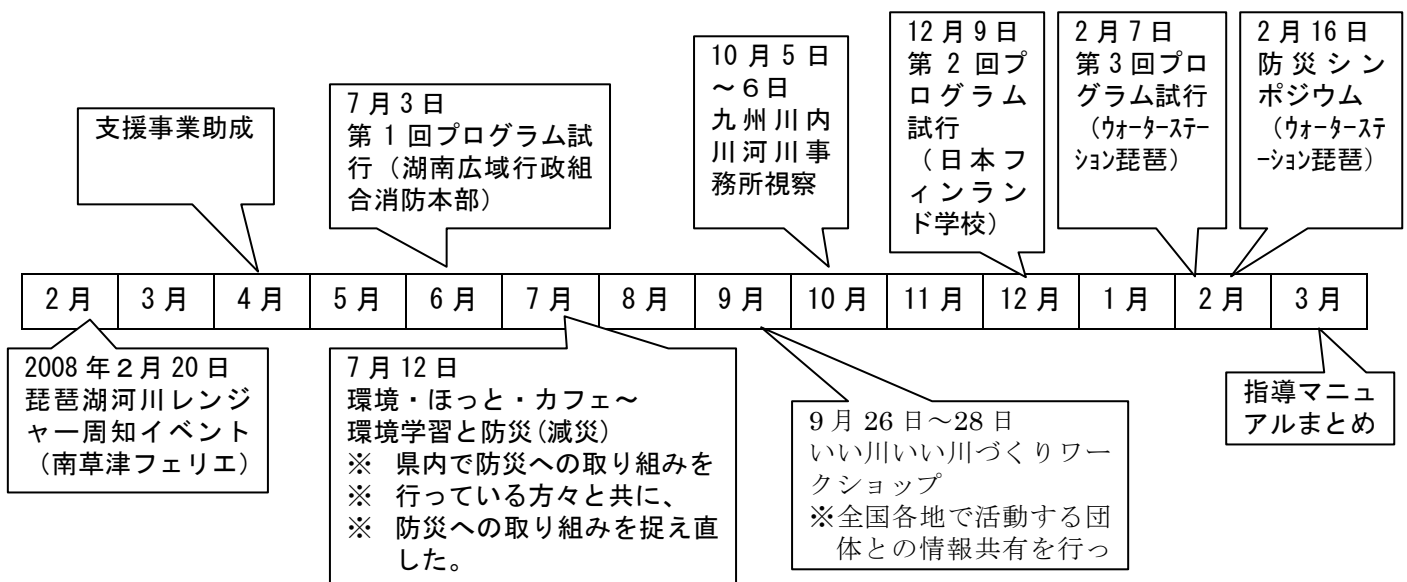
近年、防災意識の向上、地域における社会的役割の観点から自治防災訓練の必要性が問われている中、滋賀県では過去に地理的に琵琶湖を中央に位置づけた日本でも特有な地域であり、水害の歴史も多かったにも関わらず、ここ50年余り大きな水害が起こらず、県内でこのような歴史を伝える機会・意識とも薄らぎつつある。

特に近年急増している団塊世代ジュニア（30歳代の親、3～5歳の子供）の子育て世代対してのアプローチとして、減災に向けた情報提供がうまく伝わらないばかりか、興味も示さないとの声を数多くある中で、団塊世代ジュニアの子育て世代が親子で遊びながら防災（水害）への取り組みに参加し、減災の意識につながる意識の向上を目的に、親子への防災への参加プログラムの検証を行い、今後プログラム実施者の指導者養成マニュアルの作成するものとする。

防災力を高める重要なキーワードとして、「防災意識」「人と人のつながり」「防災の知識」の3つが重要と考えられている。（石井 防災シンポジウム2009.2.16より）しかし、ここで対象とする子育て中のお母さんやお父さんといった「子育て世代」といわれる人々にとって、その3つのどれともつながりにくい状態にあると考えることができる。

上：子育て家族防災（直接的に関わる実践）

※活動に関わる準備や関係団体との打ち合わせ、2回/月（平均）



下：子育て家族防災（間接的に関わる実践）

2. 第1回子育て防災プログラムの試行

2-1 実施報告

(2008年7月3日)

開催日時：2009年7月3日（木曜日）

開催場所：湖南広域行政組合消防本部（コミュニティルーム）

参加者数：約30人（10家族） 未就学児とその親

目的：参加者に、親子で一緒に参加できる防災プログラムに参加する中で、子育て世代のお母さんやお父さんの「防災」への意識を高め、「子どもを思う強い気持ち」を再確認させることを目的とする。

子育て支援 NPO と消防の活動を連携させ、子育て家族防災プログラムの開発を進めることや、消防の協力によって子育て世代に与えるリアリティの影響を検証することをねらいとする。

主催：NPO 子どもネットワークセンター天気村

協力：湖南広域行政組合消防本部、琵琶湖河川レンジャー



※消防署員からの説明風景



※パラバルーンの使い方説明







※走り回る子どもたち



※泣きながらお母さんに抱きつく子ども

2-2 第1回子育て防災プログラムシナリオ 全体：20分

進行	シナリオ
<p>導入</p> <p>2分</p>	<p>S 「わぁこれ何だかわかる？」</p> <p>「どうですか、カラフルで丸くて、大きくて、心ももっとも っとウキウキしてきたでしょ～」</p> <p>「みんなでちょっと持ってみて、・・・」</p> <p>S 「バタバタしてみよー！！」</p> <p>「次はね、スキップスキップ歩いてみよ～（歩く）」</p> <p>S : 「はぁーいじゃパラバルーンを小さく小さくしてみよう！！」</p> <p>>ぐるぐる巻きにして片付ける</p>
<p>転換1</p> <p>5分</p> 	<p>S : お母さん、お父さん、みんな好きですか？</p> <p>K : 好き～、大好き～</p> <p>S : だよね～。どんなところが好きなのかな？</p> <p>K : やさしいところ～ おもしろいところ～</p> <p>お料理が上手～おかし買ってくれる～</p> <p>S : 今日はね～、も～っと、もっと、お母さんお父さんのこと好 きになって</p> <p>お母さんにい～っぱいだっこしてもらおうね～</p> <p>まずはじめに、ぎゅう～っと抱きしめてもらおう～</p> <p>S : お母さんっていいにおいがするね</p> <p>みんなは、どんなにおいがするのかな</p> <p>S : お母さん、お子さんのにおいをかいでみよう（口覚）</p> <p>どんなにおい？</p> <p>K : ミルキーのにおい おひさまのにおい</p> <p>カレー食べてきたから衣服についてました～</p> <p>S : こんどは子どもたちがお母さんのにおいをかいでみよう</p> <p>どんなにおいがした？</p> <p>K : シャンプーのにおいお化粧のにおい</p> <p>S : じゃあこんどはさわってみよう（触）</p> <p>まずは、こちょこちょ・・・</p> <p>手あわせ、ド～ン</p> <p>手あわせド～ンジャンケンホイ！</p> <p>K : 勝ったあ～、負けたあ～</p> <p>S : お母さんの手、大きい？小さい？きれい？どうかな？</p> <p>じゃあそんなお母さんの手で、みんなをヘリコプター！</p> <p>ぐるぐる >子どもぐるぐる回る</p>

進行	シナリオ	
腕に色のついた布でグループ分けしておく	<p>S：今日のお母さんヘリコプターは何色かな？ 赤、青、黄</p> <p>K： あか！あお！きいろ</p>	
<p>転換2 5分</p> <p>さっき遊んだパラバルーンを出す</p>  <p>いない いない ばあの間隔</p>	<p>S：パラバルーンがヘリコプターの休けい場所だよ ＞親子で色のところに移動</p> <p>S：親子ペアになって色の上にいる。前に立ってね そこで又、大好きヘリコプター、ロケット etc</p> <p>S：ちょっと疲れたから、ヘリコプターお休みしま～す。 ＞（親）パラバルーンの中に入る <u>いない、いない</u> ＞（子）パラバルーンの外</p> <p>S：みんなで、1，2，3，4ー パラバルーンをつかんであげる ＞（親子）バァ～</p> <p>S：じゃあ次は、ぐるぐるまわって ＞（親）パラバルーンの中に入る <u>いない、いない・・・</u> ＞（子）パラバルーンの外</p> <p>S：前にお母さんヘリコプターあるかな バァー</p> <p>S：いたいたあ～ ぎゅう～・・・</p> <p>S：もう一回休けい～、ちょっといたずらプシュー <u>ばあ</u></p>	
<p>＞音響工夫</p> <p>転換3 10分</p>  	<p>S：あれ～？（パラバルーンがしぼんでぺっちゃんこになる） ＞お母さんお父さんがす。 みつけれられた親はここでもう動かなくなる</p> <p>S：みんな大きな声でお母さんお父さんを起こそう！！</p> <p>K：「おとうさ～ん！！」「おかあさ～ん」 3分ホントに力をぬいて死んだふり・・・ そこに救急隊がやってきて ＞注意事項 役者工夫 「お母さんお父さん！！大丈夫ですか??」 ＞揺り動かす ＞意識が戻る！！ああよかった！！</p>	
5分	最後のまとめ	

工夫した点

パラバルーンの有効性についての議論があったが視覚導入においてとくに気持ちを盛り上げるための有効性が大きい。

ただ防災プログラムとの関係性は資料や説明は必要である。

パラバルーンの留意点

子どもはパラバルーンの周囲で動く、遊ぶ。親はパラバルーンを出入りすることによって感情の変化を与える。

成果と課題：

・プログラム開発について

プログラムのリアリティという面を追及する上で、実際レスキューという分野で関わる人間が入ることで、どのようにプログラムが変わるのかという検証を一つのねらいとしていた。その結果、非日常（レスキュー突入後）では子どもたちの半数以上が怖がり泣いている様子が伺えた。また、「自分のお母さんは本当に大丈夫なの」と心配している様子があった。そういった意味で、リアリティを高めるという意味では前進したと考えることができる。

・消防との連携について

今回は、消防署内の施設見学と子育て家族防災プログラムを併せることによって、消防署の協力を得ることができた。そのため、プログラム前には、消防隊員による防災の講義が入ることとなった。講義中は子どもたちが退屈している状態であった。ただし、署内での活動には、施設見学や災害時の状況を説明したパネルなどがあり、参加した家族の「防災への意識」は高められたといえる。子どもと一緒に参加するプログラムとするための課題があるといえる。

・NPOと消防署、それぞれのねらいの共有

今回の実施については、NPOにとっては、団体が進める子育て家族防災プログラムの試行を、実施する場所として、またプログラムに実際にに関わり、プログラム後も防災に関わる空間があることで消防とかわった。また、消防としては、「地域の消防」「なかなかメッセージを伝え難い世代」というキーワードを目的として、NPOのプログラムに協力することとなった。それぞれに意味がある内容であったことが、協力体制が得られたと考えることができ、河川Rとしては、活動の輪を広げるという意味で成功したといえる

3. 第2回子育て防災プログラムの試行

3-1 実施報告

【2008年12月9日】

開催日時：2009年12月9日（火曜日）

開催場所：フィンランド学校インターナショナル部あめんど保育園内

参加者数：約30人（8家族） 未就学児とその親

目的：参加者に、親子で一緒に参加できる防災プログラムに参加する中で、子育て世代のお母さんやお父さんの「防災」への意識を高め、「子どもを思う強い気持ち」を再確認させることを目的とする。

子育て支援 NPO の活動から培われた「子育て」のエッセンスを全面に押し出したプログラムを試行させること、また、活動の広がりを持たせるためのマニュアル化に向けた取り組みに発展させることをねらいとする。

主催：NPO 子どもネットワークセンター天気村

協力：フィンランド学校インターナショナル部、元消防隊員、琵琶湖河川レンジャー



※天気村からのメッセージ



※パラバルーン活動の様子



※非日常の呼びかけ活動の様子



※非日常レスキュー活動の様子

3-2 家族防災プログラム打ち合わせ資料

対象者の認識の共有

災害に対しての経験値がある。

まわりの話には敏感

自分からは進んで前に出ようとはしない。

・プログラムについて

これからどんなプログラムをするのか、参加するにはその見通しが求められる

子どもが楽しめるプログラム。

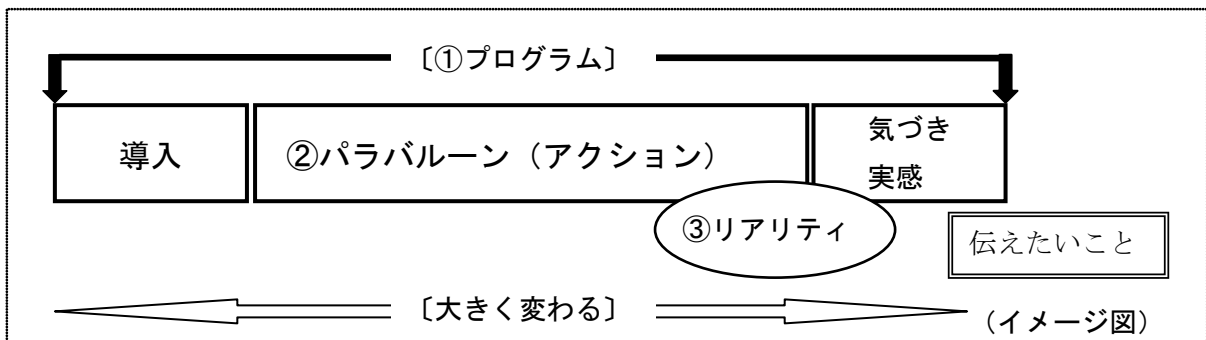
検討課題のテーマ分け

① プログラム

② パラバルーン（アクティビティ）

③ リアリティ

【対象者が「子どもを思う強い気持ち」に気づく。実感する。】



① プログラム課題について

（導入場面）（気づき・実感の場面）の言葉がけについて

導 入 （起・承・転・結）

・ どうして防災なの？ （起）

対象者はある程度防災が必要なことを知っている、ただ明確な理由付けがされていない。

そこで、対象者にとって身近な例を伝え、災害が身近にあることを実感させる。

・ このままでは （承）

対象者に防災への意識が重要であることは明確に伝わった。しかし地域では、多くの防災訓練が行われているにも関わらず、小さな子どもを守るためのプログラムは少ない。



・ だから （転）




対象者がどうやって自分の子どもを守るのか、ここでそのアイデアを伝え、楽しみながらやってみようという気持ちにさせる。


・ こうなってもらいたい （結）

プログラムのねらいを対象者に伝え、やってみようという気持ちを高めさせる。

3-3 第2回子育て防災プログラムシナリオ 全体：25分

進行	シナリオ
<p>導入 2分</p> <p>・ どうして防災なの？</p> 	<p>MC「先ほどの写真なども見てきましたが、近年の異常気象によって日本各地で様々な災害（水害）が起こっています。山間部、都市、海沿い、水害になる地域は様々で、本当にいつみなさんの身に起こるかわかりません。」</p>
<p>・ このままでは・・・</p>	<p>MC「さて、防災というテーマでお集まりいただきましたが、ちょっと考えてみて下さい。防災、防災と言ってもみなさんのお子さんはわかるのでしょうか。頭を守る、窓を開ける、それだけを伝えれば本当に子どもを守ることができるのでしょうか。」</p> <p>「今日は、みなさんが子どもさんと一緒に楽しむプログラムを行います。その活動の中で、災害という普段とは違ったシチュエーションになった時、みなさんがお子さんを守るためにもっとも重要なことを感じていただけると考えています。」</p> <p>「またこのプログラム中の子どもの動きをよく見ていて下さい。余裕があれば他の子どもさんも見ていて下さい。」</p> <p>「最後に、プログラム前に、ヒントを言いますが、今回のプログラムでもっとも感じていただきたいことは、「子どもを思うつよい気持ち」です。その気持ちが、とっさの時に子どもを危険から守るのです。」</p> <p>「さあ、はじまり～はじまり～」</p>
<p>転換 1</p> <p>2分</p> <p>パラバルーン出す</p> 	<p>S「わぁこれ何だかわかる？」</p> <p>「どうですか、カラフルで丸くて、大きくて、心ももっともってウキウキしてきたでしょ～」</p> <p>「みんなでちょっと持ってみて、・・・」</p> <p>S「バタバタしてみよー！！」</p> <p>「次はね、スキップスキップ歩いてみよ～（歩く）」</p> <p>S:「はぁーいじゃパラバルーンを小さく小さくしてみよう！！」（ぐるぐる巻きにして片付ける）</p> <p>S：お母さん、お父さん、みんな好きですか？</p> <p>K：好き～、大好き～</p> <p>S：だよね～。どんなところが好きなのかな？</p> <p>K：やさしいとこ～ おもしろいとこ～</p> <p>S：今日はね～、も～っと、もっと、</p>

進行	シナリオ S スタッフ K 子ども
<p data-bbox="225 331 341 365">転換 2</p> <p data-bbox="252 427 304 461">5分</p>  	<p data-bbox="560 286 1294 416">S : お母さんお父さんのこと好きになって お母さんにい～っぱいだっこしてもらおうね～ まずはじめに、ぎゅう～っと抱きしめてもらおう～</p> <p data-bbox="560 427 900 461">K : ギゅう～、ぎゅう～、</p> <p data-bbox="560 472 1098 555">S : お母さんっていいにおいがするね みんなは、どんなにおいがするのかな</p> <p data-bbox="560 566 1294 600">S : お母さん、お子さんのにおいをかいでみよう (口覚)</p> <p data-bbox="560 611 1086 645">K : ミルキーのにおい おひさまのにおい</p> <p data-bbox="560 656 1337 739">S : こんどは子どもたちがお母さんのにおいをかいでみよう どんなにおいがした？</p> <p data-bbox="560 750 1086 784">K : シャンプーのにおい お化粧のにおい</p> <p data-bbox="560 795 1305 878">S : お母さんの手、大きい？小さい？きれい？どうかな？ じゃあそんなお母さんの手で、みんなをヘリコプター！</p> <p data-bbox="560 889 871 922">K : (子どもぐるぐる)</p> <p data-bbox="560 934 1380 1016">S : 今日のお母さんヘリコプターは何色かな？ (腕に色タオル、 色のついた布でグループ分けしておく) 赤、青、黄</p> <p data-bbox="560 1028 991 1061">K : あか！あお！きいろ！・・・</p> <p data-bbox="560 1072 1209 1106">S : パラバルーンがヘリコプターの休けい場所だよ</p> <p data-bbox="560 1117 943 1151">K : (親子で色のところに移動)</p> <p data-bbox="560 1162 1380 1245">S : 親子ペアになって色の上に乗る。前に立ってねそこで又、大 好きヘリコプター、ロケット etc</p> <p data-bbox="560 1256 1278 1290">S : ちょっと疲れたから、ヘリコプターお休みしま～す。</p>
<p data-bbox="225 1386 539 1469">パラバルーンをつかんであ げる</p> 	<p data-bbox="635 1386 1294 1420">(親) パラバルーンの中に入る いない、いない</p> <p data-bbox="635 1431 948 1464">(子) パラバルーンの外</p> <p data-bbox="560 1476 986 1509">S : みんなで、1, 2, 3, 4ー</p> <p data-bbox="603 1520 847 1554">(親子) バァ～</p> <p data-bbox="560 1565 1018 1599">S : じゃあ次は、ぐるぐるまわって</p> <p data-bbox="603 1610 1289 1644">(親) パラバルーンの中に入る いない、いない・・・</p> <p data-bbox="603 1655 1273 1738">〈子〉パラバルーンの外 こどもは、どこの赤か移動 目で見てからわかる</p> <p data-bbox="560 1749 1209 1783">S : 前にお母さんヘリコプターあるかな バァー</p> <p data-bbox="560 1794 1034 1827">S : いたいたあ～ ギゅう～・・・</p>

進行	S スタッフ K 子ども
<p> 転換 3 10分 >注意事項 音響工夫 </p>  <p> >注意事項 役者工夫 </p>	<p> S : もう一回休けい～、ちょっといたずらプシュー あれ～？（パラバルーンがしぼんでぺっちゃんこになる） >お母さんお父さんさがす。 >みつけれられた親はここでもう動かなくなる S : みんな大きな声でお母さんお父さんを起こそう！！ K : 「おとうさ～ん！！」「おかあさ～ん」 3分ホントに力をぬいて死んだふり・・・ </p> <p> そこに救急隊がやってきて 消防隊「お母さんお父さん！！大丈夫ですか??」 >揺り動かす！！ 1～2分そのまま >意識が戻る！！ ああよかった！！ </p> <p> <u>最後のまとめ 消防隊からのアドバイス</u> 5分 </p>
□気づき・実感	<p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抱きしめることで強さに変わる。 ・そういった子どもたちを見てきました。

MC

皆さん今日ご自分のお子さんをみてなにか感じていただけただけでしょうか？
 こうしてみさせていただいていますと子どもの特徴がよく出ていますよね。
 子どもは「こわいとき」「びっくりしたとき」また「ひとりぼっちになったとき」
 は急に泣いてしまうんですね。
 また子どもが「何が起こったかわからないとき」「親も混乱しているとき」
 親の皆さんにだっこされて安心感をもらっているのですね。
 また「親の周りをウロウロ立ち回っている子ども」は決して落ち着きがないのではなく、親との距離感を確認しているのですね。
 今日は「親の方がびっくりした、とか こんな～ちゃんをみたのははじめて！！」という普段みている子どもとはちがうので戸惑われた方もおられるかと思いますが、その戸惑われた気持ちが自分の子どもに対しての新しい発見として考えていただけたらと思います。
 子どもたちを助ける為には、まず、親である皆さんが「助けたい！！」と強く気持ちを持つ事がとても大切だということを忘れないでください。
 その強い気持ちを持つ事が 災害時の「いざ」というときの的確な行動につながると私たちは考えています。
 皆様のご協力ありがとうございました。

3-4 プログラム振り返りまとめ

□ 課題解決について

打ち合わせで改善してきた課題①（親への導入・気づき）については、多くの母親が話し手を真剣に見ていた様子からも、ある程度は成功したと考えることができる。

□ 新たな課題について

②パラバルーン（活動）について

・ 非日常のスタッフの動き

（親が倒れている際に、スタッフが「大変だ・・・」と真剣に緊急事態であることを子どもたちに伝える必要がある。ただ、親が倒れているのを見ているだけでは③リアリティに欠ける。）

・ 子どもたちの状況・様子を把握したタイムキーピングが必要である。

（親が倒れているのを見て、何が起こったのかわからない状況でレスキューが入ってきた。子どもたちの思考回路が、親が倒れている→何これ→・・・と認識したことを確認して、レスキューを呼ぶ方がリアリティとしては、より効果的である。）

・ 環境設定

（雷の音がどこから聞こえたのかわからないようにする必要がある。）

（親が倒れながらも子どもを見る事が出来るように、「子どもの位置を倒れる前に確かめておく」など、一oadアドバイスが必要である。）

※ 現在、山田および高田が活動では中心となっているが、アドリブの活動も多く、活動のメリハリが付き難いこともある。トレーニング場面を広げ、より防災意識を子育て世代に広めていくためにも、他の人も出来るようにする必要がある。そのため、活動では絶対に落とせない要素を明確にし、マニュアル化する必要があるように感じる。

③リアリティ

・ ホンモノが出る必要性

□ その他

・ 子どもと一緒に参加できるようにしてもらったのがよかった。

・ パラバルーンはたのしい、これ何とって集まると思います。目玉だと思えます。

・ 家で父親が倒れたことがあるのが、防災などの意識にもつながっている。

・ 子どもが緊急時、例えば、物が喉につまった、その処置の方法についても、もう少し詳しく聞けるとよかったと思えます。

・ 子どもと一緒に話を聞く場合は、15分くらいが限界だと思います。（子どもが騒ぎ出す前に）

・ 情報は、保育園のチラシ、図書館の掲示板で、とりあえず持って帰って考える。

・ 参加費無料の文字にはやっぱり反応しますよ。

・ 子どもの様子がチラッと見る事ができました。上の子はボーッなんかやばそうやなと感じているようでした。下の子は、なんか知らんけどとにかく寄ってくるようでした。

消防意見

- ・ 水防と消防の関係から、ちょっとどこまで話をさせてもらうのか迷った。
- ・ 仕事以外での制服の持ち出しは難しい。
- ・ 子どもが非常時だと切り替わるまで、もう少し待つ必要があったと思います。
- ・ 正しい処置を行うことは重要ではないように思います。今日プログラムから伝えたいことは、そこ（救命処置等）じゃないように思います。
- ・ （親子が）参加しやすいシーンになっていると思います。
- ・ ちょっと不完全燃焼、リアリティなどを求める場合、消防では具体的な話をしたり、ビデオを見せたりします。
- ・ プログラムとしては完結していただいて、前後で 30 分ほどあれば、具体的な処置の仕方なども話せます。また、その場合だとどこの管轄でも仕事として OK がでると思います。

フィンランド意見

- ・ せっかくの機会だったので、もう少し処置の方法なども知りたかったようにも思います。

3-5 成果と課題

・ 消防との連携について

前回の湖南での実施とは違い、フィンランド学校での実施となった。消防署から講師を派遣という形は持つことができたが、子育て防災プログラムのように、5 分ほどの出番のために職員を派遣することは難しいということで、今回は消防署からの協力を得ることはできなかった。また、プログラム実施についても、リアリティを求める上で、必ずしも消防の協力が必要であるとは言えなくなった。「子育て家族の防災力」を高めたいという意識は NPO や消防、あるいは各関係団体で共通した認識であるが、それぞれの協働を生み出すには、大きな課題が残されたといえる。

子育て NPO 子どもネットワークセンター天気村のメッセージ（山田村長）は、子育て世代のお母さんの耳にはしっかり届いていたと捉えることができた。プログラム中、山田村長の話、水害写真をスクリーンで見せる場面、バルーン活動、など様々なシーンでお母さんたちが注目をする場面があるが、子どもたちも含めて一番熱心に聞いていた場面がメッセージであったと考えられる。そういった意味では、子育て NPO が子育て家族の防災を考えることは、最適の関わりであると再認識することができた。今後の課題としては、子育て NPO のノウハウを活かした、防災のプログラムが開発され、多くの子育て家族に届けられるようにコーディネートすることであるといえる。

5 第3回子育て防災プログラムの試行

5-1 実施報告

【2009年2月7日】

開催日時：2009年2月7日（日曜日）

開催場所：ウォーターステーション琵琶 2F

参加者数：約30人（12家族） 未就学児とその親

目的：参加者に、親子で一緒に参加できる防災の取り組み、避難における大切なポイントを体験から学び、日常の災害への備えの意識を高めさせることを目的とする。

プログラム後に行われる交流会によって、子育て世代のお母さんたちの様々な意見を交流させ、防災意識向上のキーワードを見つけることをねらいとする。また、お母さん同士のつながりの向上、困った時に助け合える関係が作られることに期待する。

主催：NPO子どもネットワークセンター天気村

協力：琵琶湖河川レンジャー、



※交流会の聞き取りの様子




※アンケート記入

5-2 第3回子育て防災プログラムシナリオ 全体：25分

進行	シナリオ
<p>☆ 起</p> <p>☆</p> <p>知らないより、知ってるほうがいい。水害から子どもを守る方法</p>	<p>「あなたの子どもはどうなる、子どもを水害から守る3つの方法」皆さん、おはようございます。</p> <p>今日は「子育て家族防災トレーニング」にご参加いただきありがとうございます。</p> <p>いま、各地で災害に強い地域づくりとしてさまざまな取り組みや活動が行われています。</p> <p>今日はみなさんが子どもたちを水害から守る3つの方法をお伝えしたいと思います。</p> <p>さて、（1呼吸おく）「水害」と聞いて、どんなことを想像されますか～ いかがですか??</p> <p>（応答）そうですね～</p> <p>去年はゲリラ豪雨といわれる集中豪雨や鉄砲水で事故があったりなど、新聞でもよく出てきた言葉ですね。</p> <p>少しここで、みなさんがイメージされる水害の様子を、写真で見たいと思います。</p> <p>ではよろしくお願いします。</p>
<p>S：写真をスクリーンに写す S：写真の説明をする</p>	<p>水に流されている様子や、家が浸かってしまっている様子がありましたね～ どうでしたか?? 怖いね～（子どもに応答）では、ちょっと想像してみてください。</p> <p>もしも、自分の住んでいる家が水害になったら、大雨が降ってきて、雷がなり、風がビュービュー、バンバンと戸を叩いたら、あなたならどうしますか。</p> <p>ちょっと考えてみてください、小さな子どもたち、あなたの子どもをどうやって守りますか。</p> <p>（応答・・・沈黙があっても OK）</p> <p>はい、いろんな想像がふくらんだと思いますが、今日はみなさんが想像した状況にならないようにしていきたいですね。</p> <p>それでは、これから、もしも水害になったら、みなさんのお子さんがどうなってしまうのでしょうか。</p> <p>先程想像していただいた状況になるのでしょうか。</p> <p>これからパラバルーンという大きな道具を使って、親子で一緒に体験していただきたいと思います</p>

進行	シナリオ
<p>☆ 承</p> <p>水害であなたの子どもはこうなる。！！</p>	<p>別紙シナリオ</p> <p>第1・2回のシナリオを転用</p> <p>スタッフカチンコ</p>
<p>☆ 転</p> <p><u>覚えて安心、水害の正しい逃げ方</u></p>	<p>みなさん、お子さんの様子をご覧になられて、いかがでしたか。</p> <p>(応答) そうですね！！</p> <p>泣いていたり不安な様子であったらぎゅ〜っと抱きしめてあげてください。</p> <p>みなさんがぎゅ〜っと抱きしめる、その時の、みなさんの、子どもを思う強い気持ち、が何よりも大切なのです。</p> <p>今回は、パラバルーンを使って遊びながら、水害時の状況、「もしも」体験していただきました。</p> <p>でも本当に水害になったら・・・</p> <p>最初に写真でお見せした状況がやってきたら・・・</p> <p>子どもをだっこしたそのままです。</p> <p>これから大切なこととお話いたします。</p> <p>まず水害になったら「どこに逃げたら安全なの」について、・・・</p> <p>MC交代</p> <p>こちらをご覧ください。これは、みなさんの住んでいる地域が水害になった場合をシミュレーションしたものです。</p> <p>(ここが〇〇、ここが〇〇と説明をする)</p> <p>このように、実は水は以外なところからやってくるんです。</p> <p>だから、逃げる場所を間違ってしまうと大変なことになりますね。</p> <p>今日はみなさんに〇〇市のハザードマップをお配りいたします避難場所がどこにあるのか、どういうルートで逃げるのかを見ておいて下さい。</p>
	<p>MC交代</p> <p>はい、逃げる場所の確認はとっても重要です。</p> <p>また、「どのタイミングで逃げるのか」</p> <p>これは、情報ばかりに頼るのではなく、みなさん自身の判断がとても大切です。</p> <p>とはいっても、一人で何もかも考えて決めるのはとても大変ですよ。</p>
	<p>そんなとき普段からご近所とのつきあいを大事にして、わからないこと、不安なことがあったら、</p> <p>どんどん話し合う関係になっておくことが大切です。</p> <p>実際に水害に遭っても、決して一人でがんばらない、</p> <p>まわりに助けを求める、</p> <p>みんな協力してみんなの命を守ること。</p>

<p>☆ 決</p> <p><u>水害から子どもを守る3つの必需品</u>実物を見せる</p> <p>スタッフが実践</p>	<p>さて、だいぶお子さんも落ち着いてこられたと思いますが、最後に、水害から逃げる時にあったらいいものが3つあります。それは、これです。</p> <p>何これ・・・と思われるかもしれませんが、この棒はとっても重要な棒です。</p> <p>例えば、道路が浸水してちゃんと道が見えない時、道路のあちこちにある、あるモノがすごく危ないんです</p> <p>为什么呢？（応答）わかりますか？？</p> <p>そうですね、マンホールですね。</p> <p>水圧でマンホールが飛ばされているかもしれません。そこに、もし落ちてしまったら。</p> <p>実際にそういった事故があり、数十キロも離れた場所で発見されたという例もあります。</p>
	<p>さらに長靴がよいと思われるかもしれませんが、もし、長靴の中に水が入ってしまったらどうしますか。本当に動けなくなります。</p> <p>濡れても動ける、運動靴がいいですね。（注）はだしはダメですよ。</p> <p>原田（実践する）</p> <p>そして、3つ目はこういったものです。（布を見せる）</p> <p>これは、スリングといって子どもをだっこするものですが、ちょっとアレンジして、</p> <p>物をつつんだり、たとえば子どもと親の手を結んだりする、ロープのような役割にもなります。</p> <p>このように日常生活の中で使っているものも役立ちますので普段からなにかに役立つもの、を覚えておいて下さい。</p> <p>今お話しした「かさ、靴、紐」</p> <p>この3つ、水害から逃げる時にとても重要です。頭に入れて帰ってくださいね。もう一回いいます</p> <p>「かさ、靴、紐！！」、忘れないで下さいね。</p>

5-3 プログラムによって得られた意見

※ここでは、主に 2009 年 2 月 7 日に実施した子育て家族防災・交流会、アンケートから得られた意見を記載する。

【子育て家族防災・交流会】

■自分のこと

- ・ 実家のある高知（大津市）で 1m20cm 浸水した。おばはボートで 2 階から避難した。その時、何もかもが散乱して、後片付けが大変であった。
- ・ 本当に起こった時にはどうなるかわからない。
- ・ 映像で見たことはあるが、実際にはない。
- ・ 災害について、意識して暮らしていない。

■プログラムについて

- ・ 動いて考えることが大切なことがわかった。
- ・ 少し子どもには難しい話であった。
- ・ 上の子が下の子に気遣っている様子を見ることで、大切なことだと感じた。
- ・ 上の子も下の子も一緒に家族として参加できるのがよかった。
- ・ （非日常では）下はべったりくっついているんだなと思った。
- ・ 防災グッズを用意するよいきっかけになったと思う。
- ・ 小さな水位でも動けなくなることを知れてよかった。
- ・ いつ自分の身に起こるかわからない。心構えも必要だと思った。
- ・ 子どもは自分が守らなければならないことが分かった。
- ・ この子のためにも頑張らなきゃと思った。
- ・ 一番に（自分の子どもを）守っていかなきゃと思った。
- ・ （防災について）子どもたちにも伝えていかなければいけないと思った。

■パラバルーン活動について

- ・ 非日常で倒れて、娘の呼びかけに応えなかったことで、娘が少し不機嫌になっていた。はじめて娘の不機嫌な様子に出会った。
- ・ （非日常では）子どもがずっとくっついていた。
- ・ 2 回目で分かっているも、子どもは少し怖がっていた。
- ・ 2 歳児は怖がっている様子で、上の子がこの子（2 歳児）の様子を見てびっくりしている様子であった。
- ・ 笑いながらも、子どもは少し不安がっていたと思う。
- ・ 子どもたちは、一生懸命バルーンで遊んでいた。
- ・ お年寄りや子どもは水害弱者だと感じた。

—その他の意見として—

高知で生まれて、しょっちゅう水害になったんです。ただその度に川にコンクリートが張られて、自然が失われていくのを見てきました。「本当にこれでいいのかな～」と思ってきて。こんな言い方でいいのかわかりませんが、もうある程度は溢れることを考えて、水害と共存していくような暮らしが大切なんじゃないでしょうか。自然も残されていいと思うんです。（交流会後、母親意見として）

—————【子育て家族防災・アンケート】—————

※30代を中心に集まった、子育て世代のお母さんたち10人にアンケートを実施、その内容を以下に紹介する。

問1 今日、参加して一番心に残ったことは何ですか。

- ・ 案外浅い水深でも動けなくなるということを知ったこと。
- ・ 子ども達は 水害という言葉は初めて知ったので、そういう事が世の中にあるという事を感じられた様
- ・ バルーンで子どもが真剣に目覚めさせようとしてくれたのを見て、とてもいとおしい気持ちになりました。この子のために、元気でいなくてはと思います。（ちょっと反抗期なのでよけいに…）
- ・ 上の子が思っていたよりちゃんとマジメに参加してたこと。
- ・ 水害が身近なものにかかわらず、普段あまり気にとめずに暮らしていた事に気づかされた事。
- ・ 次男が2回目の参加にもかかわらず、今回も私が動かないことについて笑いながらもかなり不安そうにしていた事
- ・ パラバルーンの子どもの反応
- ・ カサ 靴 ヒモ（布）3アイテム。ちょっと知っている知らないでは大違い。勉強になりました。
- ・ 下の子（2歳）が不安そうに心配していたのが印象的でした。
- ・ パラバルーン…不安がる下の子を上の子が気遣っている様子

問2 お子様と楽しく過ごせましたか？ ○をつけて、その理由を教えてください。

[とても楽しかった 楽しかった あまり楽しくなかった まったく楽しくなかった]

●とても楽しかった 2名

- ・ 子どもとまた新たな初挑戦ができました。
- ・ 親子参加型は、珍しいと思うので とても有意義でした。

●楽しかった 8名

- ・ いつもと違う遊びが一緒にできました。
- ・ パラバルーンを喜んでいました。

- ・ 日頃 あまり見られない子どもの様子（集団の中での）を見て
 - ・ 下の子が ずっとちょろちょろしてました…
 - ・ バルーンや効果音で非常時を子どもに体感させる事ができた。
 - ・ 三男がまだ小さく参加しきれなかったのが残念（じっとしていなくて）
 - ・ 災害について楽しく学べたので
- あまり楽しくなかった 1名
- ・ 子どもがいまいち何をしに来ているか分かっていなかったから。

問3 防災プログラムに参加する前と現在とで、防災への心構えや関心の深さに変化はありましたか。また、それはどんなことですか。

[とてもあった 少しあった あまりない まったくない よくわからない]

- とてもあった 5名
- ・ 水害に限らず、災害袋の用意の重要性をより感じた。また 傘やスリングも入れておきます！
 - ・ 水の中での動きにくさは、改めて気が付いた。子どもがいるので、不安に思った。
 - ・ 冷静な判断と日頃の心構え
 - ・ 以前から関心はあったものの、いざという時の具体策などの知識がなかった
 - ・ 対岸の火事ではないということあらためて認識しました。
- 少しあった 6名
- ・ お役立ちグッズ、水の深さと歩く時の注意←マンホールとか…
 - ・ 今まで知らなかったことが知れた
 - ・ 3つの必要なものを知れた事
 - ・ 以前は、ほとんど考えたことがなかった。
 - ・ 普段 あまり意識していなかったので

問5 スタッフのサポートの中で、もっとこうだったらよかったのということがあれば教えてください。

- ・ 洪水の時の地図が少しわかりにくかったです。
- ・ 水害についての説明が 子ども達には わかりづらかった様に思う
- ・ 特に思いません。たいへん丁寧にしていただいたと思います。
- ・ 災害は突然やってくるものだし、それをうまく演出して下さったと思います。
- ・ マイクのせいかわかりにくいところがありました。
- ・ もっと親子で体感できる事があれば
- ・ 特にありません。お話もたのしくすばらしかったです。

問6 その他、何でも書いてください。

- ・ スタッフの人が水につかった時の画像はわかりやすく子どももびっくりしてしまし

た。子どもはバルーン遊びが楽しかったそうです。

- ・ 実家が高知で 10 年前に 1m20cm 浸水しました。直後の様子を思い出しながら 災害への備えについて改めて考えました。
- ・ 大人向けの防災プログラムは参加した事があったが、子どもの参加できるのがよかったです。ありがとうございました。
- ・ 水害のイメージがなかなかわきにくいので、もう少し映像（ビデオ）などなれば 子どもたちにもわかりやすいかなあと思いました。
- ・ 育児に使用していたスリング等 思わぬ物が（傘も）役立つ事を知りました。
- ・ テレビ ニュースなどから情報を得るのとは また違って子どもと一緒に体感できた事がよかったです。
- ・ また参加いたします。

6 子育て家族防災トレーニングシンポジウム開催

6-1 子育てシンポジウムの報告

開催日時：2月16日（日）13:00～15:00

開催場所：ウォーターステーション琵琶

目的：子育て世代の参加者と行政がよりよく交流する機会となり、互いに意見を認識することを目的とする。子育て世代は防災への知識や現状について、行政は子育て世代の意見を知りたいとする。

主催：NPO 子どもネットワークセンター天気村

協力：琵琶湖河川レンジャー

対象：子育て世代の一般参加者、および関係行政担当（約20人）



※パネラー発表



※コーディネーターの討議課題の投げかけ



※グループ討議の様子



※河川Rによるグループ発表の様子



【開催スケジュール】

13:00 開催挨拶 (天気村代表 山田貴子)

パネラー紹介

13:10 開催趣旨等 (コーディネーター石井布紀子)

13:20 パネラー話題提供

- ・ 河川行政として、国が行っている河川と住民との関わりと、ハザードマップ作成の必要性について (国土交通省琵琶湖河川事務所 太田年彦)
- ・ 河川行政として、草津市が行っている河川と住民との関わりと、ハザードマップの使い方。 (草津市河川課 堀井武彦)
- ・ 河川行政として、滋賀県が行っている河川と住民との関わりと、新たなハザードマップの手法紹介。 (滋賀県流域政策室 瀧健太郎)

13:40 グループディスカッション

- ・ すばやく判断する力を高める (河川レンジャー高田)
- ・ 助け合って上手に逃げる力を高める (河川レンジャー原田)

14:30 グループ発表 (河川レンジャー)

※2-1 にて内容記載

14:45 パネラーの意見

- ・ テレビで水害の映像を見ても「大変だな」と思うくらいです。だから子どもと一緒に参加する防災のプログラムに参加してはじめて子どもの命を守ることを考えることになった。防災について、何かを準備するのは結局お母さんだと思います。だから、お母さんが防災の取り組みに参加しやすいように、わかりやすい情報、子どもと一緒に考えることができる場、そういったものがあればうれしいと思います。

(子育て世代参加者の代表2名)

- ・ 行政から「これ」という政策を提案できていないことで、不安を与えてしまったかもしれない。子育て世代というボヤっと見え難い層の人々と話すことができ、課題が見えてきた。次回、このような場が持てた時には、課題を踏まえた話をしていきたい。

(国土交通省琵琶湖河川事務所 太田年彦)

- ・ 草津市では出前講座を開いているが、なかなかこういう人(子育て世代)の前で話すことはない。ほとんどが高齢の方になります。しかし、災害になった時、みんなで助け合う、地域のつながりが大切である。

(草津市河川課 堀井武彦)

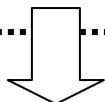
- ・ といった地域で、どのような判断基準で、どんな時に誰が何をすべきなのか、ということが順番にそれぞれの人ができるようになる必要があるがわかった。そういったことを県庁、地域の人々に伝えたい。

(滋賀県流域対策室 瀧健太郎)

14:50 総括 (コーディネーター 石井布紀子)

- ・ 子育て世代に対して
- ・ 行政に対して

※内容は次に記載



※内容紹介

【パネラーの意見】



【ハザードマップの作成について】

浸水想定区域図に、避難経路、避難場所、危険場所、あるいは地域特性などを加えたものである。予想される浸水と実際が同じとは限らない。「実際に洪水の時にどうしようか。」と考える、ハザードマップは逃げるための判断をする材料と考えてほしい。

(琵琶湖河川事務所)



【ハザードマップの活用について】

大雨と地震では避難する場所がまったく違う。ハザードマップには、いざという時に浸水する地域を色分けして、見やすくしてある。どのように逃げるのか、またどんな状況になったら危ないのかをハザードマップの情報から考えてほしい。(草津市)



【新しいハザードマップについて】

ハザードマップが被害の大きさにつながらない。浸水予想されない、身近な水路などから溢れてくることがある。子どもさんと一緒に、学校から家に帰ってくる経路、どのような場所が危ないのか、身近な場所から考えてほしい。(滋賀県)

【グループ発表】



もしもの力を高めるために、とっさのときに私はこれ！という自分に合った考え方を見つける。そのためには、子育て世代の意見を聞いて。(高田拓朗) 古い自治会と新しい子育て世代ではGAPがある。そんな中でも、どうやったら子育て世代の防災力を高めることができるのか。(原田優美)

【総括】



・お母さんたちへ

「意識（絶対に助かってやる）・知識（防災の知識）・つながり（家族や子育てサークルなど）」という3つを、今日の行政からの具体的な話も踏まえて考えられた。」

・行政へ

「お母さんたちが安心できる、特に5歳以下のお子さんを2人以上抱えているお母さんが安心できるようにするにはどうしたらいいのか、というヒントを今日は得ることができた。」

（石田布紀子）

3-1 グループ討議より得られた意見

※グループディスカッションから得られた子育て世代の意見について、「すばやく判断する力を高める」「助け合って上手に逃げる力を高める」をテーマに収集した。

—————すばやく判断する力を高める】—————

○災害（水害）に対して、不安に思っていることについて

- ・ 水害を普段感じることはない。
- ・ 自分で「体験」したことがないから、その時になってなにもできないことが不安。
- ・ 最近は携帯などでも防災を重要視してきている。情報ツールは進んでいるけど、実際いざという時に使えるかどうかわからない。
- ・ 自分の住む場所で、周りの住民を知らない。
- ・ 助けを誰に求めるのか、わからない。
- ・ 学校などでは、地震や火事は訓練があるけど、水害は少ないと思う。
- ・ もしもの時に、何をしたらいいのか家族がバラバラにならないだろうかと不安。
- ・ 子どもは、楽しいような状態になると思う。危機感を感じないと思うことが不安。
- ・ 実際に防災用に食料や水などを準備していない。
- ・ 直観でわからない。
- ・ 何がホンマなのかわからないことが不安である。

※ 次に、これらの不安や問題に立ち向かうために、具体的にすばやく判断する力を身に付け、さらにどうやって広めるのかについて考えた。内容は大きく分けて3つである。なお、「もっといろいろ広めようよ」という参加者の声から、広める方法を考えることとした。

No1 自分が体験して実感する内容のある防災プログラム。

- ・ 自分で体験できるものが多い。
- ・ 自分でやりたい（防災プログラム）。「体験」することで「実感」できる。

- ・ 日頃から子どもに役割を持たせ、自分も何かの役に立つという自覚を持たせる。

No2 自分に必要な災害への備えは、簡単にひとまとめにすること。

- ・ 自分に必要な備えを知るために、性格診断のようなイメージで自分に最も必要な防災の準備（考え方）を、「yes/no」で診断できるようなツールが欲しい。
- ・ 災害をキーワードに「これ」を知っておきたい。「これ」を準備しておくことが大切である。
- ・ 「これ」に当たる大切な情報は必ずひとまとめにしておきたい。

>身の回りの情報について

- ・ この場所が低い、この場所が・・・、といった自分の地域を知っておくことが大切だと思う
- ・ 自分たち家族は誰に助けてもらえるのか、地域、周りの人を知っておくことが大切だと思う。
- ・ 災害後の災害（2次災害）の情報が欲しい。また、それはいろいろな事例から説明されるものがよい。

No3 地域独自の水害の経験を子どもから大人まで伝えたい

- ・ 絵本にして、このような地域でこんな水害が起こった。また、このようにしたら助かったなど、地域独自の水害体験をノンフィクションで伝える。
- ※具体的に作る場合、協力する気持ちを聞いたところ、「もちろん協力させていただきます。」と応えた。

—————【助け合って上手に逃げる力を高める】—————

○災害（水害）に対して、不安に思っていることについて

- ・ マンションなので危機感がない。
- ・ 昼間に被災した場合、家族がバラバラなので一人では対応できるか不安。
- ・ 子どもが下校中（通学中）に水害にあったらと思うと心配。
- ・ 逃げるとなると避難経験がないので、どう逃げていいかわからない。
- ・ 予想と実際の被害地が異なることを聞いて 自分の住んでいる地域の知識を深めることが大切だと思った。
- ・ 大雨と地震では 避難場所が違うことに驚いた。
- ・ ハザードマップは持っていない。
- ・ ポストに入っても見逃してしまいそうだ。
- ・ 自治会は年配の方が中心になって活動されている。新しい世代とはつながっていない。
- ・ 自治会長さんは、災害体験者。自分の災害体験から、災害時 各家庭の状況を把握できるように名簿を作成されている。

※ 次に、これらの不安や問題をどうしたら改善できるのか、どうやったら助け合って上手に逃げられるのかを話した結果、得られた意見である。

Point1 どこが危険なのかしっかり把握しなければならない。そのためには、ハザードマップについての知識を深めることが大事である。(知識)

ハザードマップについての具体的な提案として、以下の4つを挙げる。

- ・ ポストに入っても関心が深まらないので、母親・父親教室や母親が集まる子育て広場や乳児検診などの場で、説明し配布してほしい。
- ・ 幼稚園・保育園など母親が集まる場所に掲示したらいいのではないだろうか。
- ・ 小学校で配布してもらえると子どもの口から家族に情報が伝わるし、子どもも水害への備えについて勉強できると思う。
- ・ 母親がハザードマップについて学べる場がないので、子どもと母親が参加できる場があったらうれしい。

Point2 地域とのつながりを深めることが大事である。(つながり)

- ・ 小さな子どもを持っている母親同士のつながりは深いが、近所の住民(自治会)とのつながりは薄い。近所の方に積極的に声をかけたりするなど、自分の災害への意識と地域のつながりをとぎらせることなく学んでいきたい。
- ・ 近所の方が昼間いるのかいないのか知るとは、大切だと思う。

Point3 情報収集をしっかりする。(意識)

- ・ 避難経験がないので、逃げる時はしっかりと情報収集して判断する。
- ・ 情報をしっかり頭にいれて、パニックにならないように落ち着くことが大切。
- ・ 子どもと防災プログラムに参加することで、自分が子どもを守らなければいけないという意識が強まる。

※次は、グループ討議中に行政から出された質問に対する参加者の考えである。

質問：災害時の要援護者支援を協議中である。要援護者の名簿を作成することについてどう思うか？

- ・ 名簿作成に協力しても、どこまで守ってくれるのか「不安」である。
- ・ 登録するかどうか選べたらよいと思う。
- ・ 災害時の各家庭の状況を把握するのは大切なことです。作成に賛成します。
- ・ 青山地区は警備会社に依頼している。ケーブルテレビを使った情報発信で地域の情報が収集できるので安心している。

6-2 アンケート結果

※シンポジウム参加者向けに実施したアンケートから得られた意見について、ここでは一般参加者と行政関係者のアンケートをそれぞれ紹介する。一般参加者は30代女性を中心とした、子育て世代の母親10人である。また、行政関係者は4人から得られたものである。

【一般参加者】

問1 今日、参加して一番心に残ったことを教えてください。

- ・ 今まで災害を経験したことがなく、自分自身に起こらないだろうと全く無関心でしたが、今回参加させていただき、考え方が180°変わりました。
- ・ 防災とひとくくりに考えていたが、地震と洪水と別であるという事を改めて知った。
- ・ ハザードマップで安心でも実際はちがう事があるのにびっくりしました。
- ・ 小さな子どもでも日頃から話を聞かせ、近所をもっと良く知っておくことが大切だと思いました。
- ・ 水害と地震、災害では、避難場所が違うということ。
- ・ マップの所以外にからも水害もおきている。
- ・ 行政の方もいろいろ考えていただいているということ。
- ・ グループディスカッションで行政の方をまじえてのお話。
- ・ コーディネーターさんのまとめのお話。
- ・ グループ討論
- ・ 今後の学びに生かせたらと思いました。

問2 ハザードマップについて、あてはまるものに、○をつけて その理由を教えてください。

よく知っている 1名

知っている 2名

- ・ 配布されたため

あまり知らない 5名

- ・ 聞いたことはありますが、実物は今日始めてみました。
- ・ 家になと思う
- ・ TVやラジオでその言葉は聞いていても実際に目にした事がない為

まったく知らない 3名

- ・ 以前にもらったのだと思ったら浸水想定区域図でした。
- ・ 大津市で作成されているのでしょうか？もらった覚えがありません。

問3 あなたのお住まいの地域は、災害に対して安全だと思いますか？

安全 0名

どちらかといえば安全 6名

危険 0名

どちらかといえば危険 0名

わからない 4名

- ・ 現実出合ったことがないので、わからない

問4 問3で 危険・どちらかといえば危険と答えた方へ どのような危険を感じていますか？

- ・ 土砂災害の危険

問5 あなたやあなたの家族が取り組んでいる災害への備えがあったら教えてください。

- ・ 避難場の確認

- ・ 特別にはありませんが、災害グッズは用意しています。
- ・ 持ち出し品を準備
- ・ 食料 etc の用意
- ・ 災害がみんな出かけている時に起こったとき、集合場所を決めている。
- ・ 特になし
- ・ ほとんど何もしていない状態です。
- ・ 有事の時の集合場所くらいです。
- ・ 災害に備えての備品を少しずつ、そろえています。

問6 防災について どのような知識や情報を得たいと思いますか？

- ・ 災害後、どのような行動を取っていけば良いか理解しておきたいです。
- ・ 実際に非常持ち出しグッズを用意するのは難しいので、配ってもらえれば嬉しい。
- ・ どこが安全でどこが危険なのか。避難場所は？ 避難場所までの道で注意する場所は？どこから連絡があるの？
- ・ まず身近な自分の住んでいる場所を知ろう（知りたい）と思います。
- ・ 水害は前もって予測できるということなので、川がはらんしそうとか情報をすばやくスピーカーなどで流してほしい。
- ・ 体験してみたい。
- ・ 何を準備すべきか
- ・ 具体的なヒナンのハウツー

問7 子育て親子防災トレーニング意見交換会に参加する前と現在とで、防災への心構えや関心の深さに変化がありましたか。また、それはどんなことですか？

とてもあった 8名

- ・ 「防災」のばく然としたイメージを頭の中で具体的に考えるようになった。
- ・ 多くの人の意見を聞いて、危機感を持つことができた
- ・ 怖さを知りました。
- ・ 親の構え（生きるぞ！って力）
- ・ 子育て支援に参加しますので、今日のことは学びの前の心構えになりました。

少しあった 2名

- ・ 家族と夫ときちんと話をしておかないといけないと思いました。

問5 防災対策のココがわからない ココが知りたいなど 防災についてご意見がございましたら、どのようなことでも結構ですので、具体的にご記入ください。

- ・ もっと身近なところでこのようなシンポジウムがあれば良いと思います。
- ・ 何がわからないかもわかっていないように思います。
- ・ ハザードマップはポストに入っているだけでは、浸透していないと思います。行政の方からも、学校 幼稚園に出向いて行ってわかりやすく話をしてもらえたらいいと思います。

————— 【行政参加者】 —————

問1 今日、参加して一番心に残ったことを教えてください。

- ・ みなさん熱心に考えておられた。
- ・ 何が本当かわからないと言って頂けたこと。
- ・ やっぱり自主防災組織の必要性が高いことを皆さんが意識されていたこと。

問2 ハザードマップについて、あてはまるものに、○をつけて その理由を教えてください。

よく知っている。3名

- ・ 仕事で関わっています。

知っている 1名

問3 あなたのお住まいの地域は、災害に対して安全だと思いますか？

どちらかといえば安全 2名 どちらかといえば危険 1名 わからない 1名

問4 問3で 危険・どちらかといえば危険と答えた方へ どのような危険を感じていますか？

- ・ 地震
- ・ 災害の経験がないこと

問5 あなたやあなたの家族が取り組んでいる災害への備えがあったら教えてください。

- ・ 特にないです。
- ・ 非常持ち出しグッズ
- ・ 集合場所を決めている。

問6 防災について どのような知識や情報を得たいと思いますか？

- ・ 自分の家族の安全を確保する判断基準
- ・ 雨量 避難のタイミング
- ・ 水位・雨量

問7 子育て親子防災トレーニング意見交換会に参加する前と現在とで、防災への心構えや関心の深さに変化がありましたか。また、それはどんなことですか？

- ・ 子育てされている方ならではの不安や意見があつて。

7. 子育て家族防災トレーニングコメント（まとめ）

子育て家族防災シンポジウム 2009. 2. 16

コーディネーター石井布紀子先生談話から

1. 子育て世代に対するアプローチの必要性和行政の姿勢

まず子育て世代の防災への取り組みのアプローチの困難さはどこの地域でも課題にあがっていますが、特に子育て世代にこだわって子育て防災への取り組みが実現したことが大きな成果であると考えています

だからこそ実施する側のポジション・立ち位置をどこに向けての発信であるかを確認しておく必要があるのではないかと思います。

また実施する側が親や子どもに対して、どれぐらいのレベルで子育て防災への取り組みをアップしたいかということを最初に明確しておく方が親切ですね。

今日は行政の立場からの発表もあることですのでそれぞれのポイントを絞ってお話があった方が参加する側（親側）は不安からではなく安心安全の話で聞き入ると思います。

たぶん参加の親はこのように行政の方から、お話をする場面も聞く場面も初めての経験ではないかと思えますし、こんなふうに誠実に対応して頂ける機会ってなかなかありません。親は子ども関係の担当者しか行政は自分たちには関わってくれていないと思って生活しているのが殆どで、幼稚園とか保育園とかの人だけじゃない、住民票もらいに行くだけじゃない、子育て支援課以外の担当者が市民のみなさんの生活を守るための仕事をして下さっているということを知ることが大事です。

特に危機管理という面で自分と子どもたちの命を守られている話が直接行政の方と話ができる機会はありません。

2. 子育て世代意見をどう行政に届けるか

子育て世代として市民の1人の意見を出す場の大切さはあげましたが、子育て世代の意見を聞く場が実現しにくいのではなく、意見として取り上げられない現状を親側は知っておかなければなりません。

特に災害時の課題や問題は、公的機関にぶつけることによって解消すると思込んでいる市民が多い中、市民の側も整理して意見を出すくせをつけていなかったら、逆に災害復興自体遅れるということを知らなければなりません。

だからこそ若いうちから公的機関に対して、不満や課題をぶつけるのではなく言いたいことを少しずつ整理し、意見をして出す練習を市民もしておくべきで、モンスターペアレントと呼ばれる言いたい放題の親にはなって欲しくありません。こういう場が今後も実現することが市民と行政の共存を進めるきっかけとなるはずで。

3. 「にげる」こととハザードマップの使い方

水害と地震のにげ方と異なることを知っていただきたいですね。

水害でにげる時って、小さい子どもは親の不安とは対象にうきうきしているのを知っていますか？

なぜかハイキング気分になるのですね。

でも問題は親側にあるといえます。

特にマンション住まいと戸建て住まいの場合のにげ方は異なることをおぼえて下さい。

マンション住まいで水害が起こった。下のにげるのかといわれると逆に危ないということになります。ではにげないのかと言われると、コミュニティーができていないと共助も行われていない。

またハザードマップの見方も水害と地震は異なります。

ハザードマップに書いてある避難所に行ったらいきなり水害に巻き込まれたという話が水害にはあります。

また水害の避難時に道路の側溝のフタやマンホールのフタにも要注意です。そんな被害が出る前に避難をしなければいけないことを意外と知らない人が多い。

ではハザードマップの活用はどうしたらいいのというインフォメーションを市は国はどうしているのかという情報を早めに自分からアンテナを伸ばしておくことが大切です。

情報提供と情報の受け方をハザードマップと合わせておぼえておくことです。

4. 河川レンジャー

今日のシンポジウムの場合もですが、出された意見を受けてそれを行政に届けるシステムがあるということを知ってことも重要です。

今日は琵琶湖河川レンジャーというファシリテーターが存在し、その取りまとめの役割があるということを最初に話をしておいて自分たちの意見がいい放しではないことを確認しておきます。

琵琶湖河川レンジャーがグループの意見の進行と取りまとめとをすることによってこの場はレンジャーの進行で始まり、行政と市民をつなぐレンジャーがいることがわかって意見を出すことの安心感を与えることが大切です。

親の立場から意見が聞ける場は殆どない。



国・県・市のそれぞれの立場からの発表



4. 子育て防災とパラバルーンの検証

インパクトの強さをパラバルーンで表現できたのは非常に効果がでるものと思われます。今回の具体的な着眼点は「子どもを思う強い気持ち」を持つ親が増えることを目指し、パラバルーンの防災訓練だけではなく、本当に思う気持ちが力になるという確信を得るプログラムに仕立てあげることが目標と思われます。

またパラバルーンの内容は親と子どもの動きを象徴的に表すのですから、もっと演劇っぽくしてもいいからインパクトの強い象徴的な場面を作ってもよいかと思われます。

このプログラムのもう一つの着眼点は、倒れた状況の中からの親子関係の状況を探り、そして子どもは必ず自分を助けてくれるのは親であるという信じ、親は必ず子どもを助ける自分の力を信じることから始まるそこから新たな親子関係を知る、また守ることはすばらしいことであることを知る。だから子どもを守れる自分は正しい、すばらしいという自信を持ってもらうことにあるはずです。

しかしながら、現プログラムの内容は親が倒れて子どもの態度をみて自分の動きを知るという設定になっているので、第二段階のかなりインパクトの強いプログラムになる必要があると思われます。

でないと自己肯定感がただでさえ低い親にとっては、自分は無力だって言う立場を演じることで終わっていることが課題になります。

次の第二段階で何かのやり方を変えて自分は有力だっていう立場を体験してもらうプログラムをいれることで「親の、私の力がここまでできるんだ！！」という自己肯定感をもつプログラムで終わることの重要性を親が倒れる前に設置することです。いぶん解消されると思います。

アンケートの集計をみても多くの親が子どもの新しい面というかお兄ちゃんが下の子を気づかっているのを見てすごくよかったとか、あるいは普段あえない娘の機嫌さに出会ったとかそういう内容がありますが、子どもの変化に親が寄り添うのではなく、親の自分がしっかりしないと…今の自分は子どもを助ける力がある、子どもを守る力があるという自己肯定感をもつプログラムに仕立てあげた方が「子どもを思う強い気持ち」になる親が育つと思います。

では最後に何が必要であるかというやはり自己肯定感と信頼感っていうのはすごい判断力が自信につながると思えることです。人間の命にも愛着があってはじめて「生きたい」気持ちになれるのが人間です。究極はそれが原点、根っこであると思えます。

防災の救助力はそこをちゃんと感じてもらえるようなものがないと感じ方が浅いと思えます。

地域で助け合いがしっかりできている地域はそこに住み続けたいという愛着があるからこそ、地域での共助が実現しています。

自主地域防災地域での実話で、2時間で40人掘り起こした事例があります。この話から言えることは災害救助は恐怖感ではなく助け合うことの信頼感を持つことで命が助かるので

す。

特に行政の考える災害対応は恐怖心を持たせる手法がとられていますので、これだけでは問題といえます。

恐怖心を持たせるだけでなくもっと重要な人間の信頼感や助け合うこと大切さを同時に提供しないと特に日本のような危機感を描きにくい国では災害は怖いとだけ教えられがちなるのです。

最後に

親が小さな成功体験を積むこと

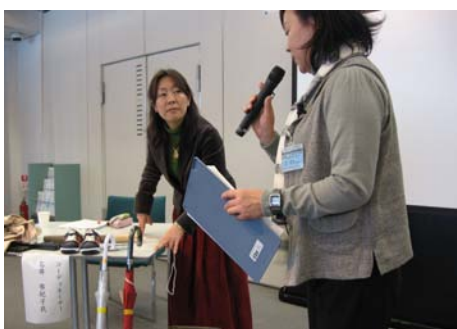
親がとっさの時の判断で子どもを守ることが「私にもできる」と思わせる方法にはHOW TOで伝えることがわかりやすいと思われます。

だからこそ具体的に「目」で見せて「耳」で覚え込ませる手法が的確です。

今回のプログラム内容にもあった具体的な「長靴より運動靴」「避難の時は傘」「子どもを結ぶロープ」があれば安心して避難できますという、すぐに覚える忘れない世代であることを踏まえ、「こういうことをやりなさい」ではなく「こうやった方がいいですよ」と具体的に見せて覚えさせる手法は良くできていると感心しました。

とにかくどんな形でもいいから「自分ができた体験」小さな成功体験を1個ずつ積み重ねていくことが守られる側から自分が守る側になる最大の方法であると思います。

(談話からのまとめ)



8. プログラムの検証

8-1 子育て防災への考えの考え方

- ・ポイントは親子で体験すること

親子一緒に体験することが大切であると仮定して、作られてきたプログラムであった。参加者の意見として、「小さい子ども連れでも、一緒に家族で参加できるような取り組みがうれしかった。」「上の子が下の子を気遣っている様子、子どもの“はじめて”に触れることが出来た。」「防災への考え方は、まずは体を動かして（体験）体で備える、それが大切なんだと思った。」などのように、子どもと一緒に体験することが大切であるという意見が多くあった。子育て中のお母さん達にとって、子どもを放っておいて防災のイベントに参加することはない。そういった点から、親子で参加し、体を動かして体験することが出来るプログラムが大切であると証明されたといえる。

- ・子育て世代のお母さんお父さんの防災意識を高める。

プログラム参加者には「子どもを思う強い気持ち」を持たせることによって、自分が自分の子どもを守らなければならないという意識を高めさせることを目的としてきた。「子どもを思う強い気持ち」がもしもの時に、判断し子どもを守ることにつながると考えたからである。プログラムに参加した方の意見として、「一番に自分の子どもを守っていかなきゃ、この子は自分が守らなければ。」「小さくても、しっかりと子どもに伝えていかなければいけないと思った。」などのように、「子どもを思う強い気持ち」が自分の子どもを守らなければと考えることにつながるとはわかった。そういった点で、目標は達成されたと考えることができる。しかし、実施した人数に対して、こういった意見を上げる人は小数であったため、プログラムが参加者に対して直接的に「子どもを思う強い気持ち」を高めさせることにつながったのかは疑問が残る。

- ・“生の声”と現状の交流という視点から

子育て世代が持つ「防災」への考え方、それは、交流会やアンケートなどから多く引き出すことができた。そして、その意見を直接行政に伝える場として、2月16日にシンポジウムが実施された。ここでの最も重要な成果は、住民と行政がそれぞれの考えに直接触れる機会になったということである。国・県・市の担当者にとっては、「子育て世代と関わる貴重な機会」という意識を持って関わり、様々なアイデアや現状・課題を見つける会になったといえる。また、一般参加者にとっては、「行政との新しいつながり」を見つけ出すことを期待して参加し、行政が現在どのようなアプローチをしているのかを認識することや、防災への意識を高めるきっかけになったといえる。

今後、ここで得られた成果をもとに、住民として、行政として、両者がそれぞれの立場からよりよい「子育て世代の防災力を高める」ための活動に発展させられるのではないだろうか。

川の日ワークショップエントリーシート

活動や事業の名称または応募に当たってのキャッチフレーズ（両方記入可）	
大きく、変わる！ 大変！？子育て家族防災トレーニング	
川や水辺の名称 *ふりがなを忘れずに！	ふりがな くさ っ <u>草 津 川</u> *川の場合 (川水系)
所在地	滋賀県 草津市 JR 草津駅付近
川や水辺の状況 ・ 川幅や瀬や淵など川の形状、水質や流れ、生きもの、景観や名所、洪水や治水などの状況、過去と現在の違い ・ 住民と川の歴史、関わりなど	<p><子育て家族層へのアプローチは難しい！> 滋賀県草津市に多く在住する3～5歳の子どもを持つ20後半～30歳代の親（子育て家族世代と呼ばれている）は、かつて天井川であった草津川の洪水の歴史をほとんど知らず、洪水ハザードマップが発行されても、日々の生活とは無縁と感じられ、減災周知とは程多い状況である。また駅前周辺においては都会化が進み、マンション住まいの若い世代の転入者も多く、核家族化とともに地域とのつながりは薄くなっている。</p> <p><着眼点：子育て家族の気持ちをつかむのは「子どもを思う強い気持ち！」> 今の子育て家族世代は自らの体験経験が少ないばかりか、災害体験がほとんど無く、親である意識の希薄さが子育てに影響しているといわれる。そこで子育て家族世代を対象に親子が遊びながら防災（水害）への取り組みに遊びながら参加することで、親子のきづなの意識づけ、しいては防災（水害）、減災の意識につながる気づきの場を提供する。</p>
活動や事業の内容 ・ 内容 ・ 成果 ・ 課題 など	<p><パラシュートバルーンで、遊びから非日常へ> 当法人では20年間、草津市において幼児野外体験事業や子育て支援を通して、核家族の親子が気軽に参加できる受け皿や地域と関わりをもつ場を設定し、子育て環境の充実を図ってきた。これまでの子育て支援の視点から、子育て家族世代の幼少体験、特に遊び体験の少なさが、親世代に生活すべての意識低下につながっていると考えている。そこで日常から非日常の転換を「パラバルーン」で親が子どもの命を守るという状況をあえて設定し、子どもを思う親の強い気持ちの意識づけとして、親子関係の再認識を図るプログラム開発を試行してきた。また琵琶湖河川レンジャーとの協働事業でプログラムの開発と試行を数回行ってきた結果、ネットワークの中で湖南広域行政組合消防本部地域防災課との連携の中、より臨場感とリアリティがある内容としての検証作業を進めている。このような様々な協力体制確立のプロセスを大切にしながら子育て親子に対して気軽に興味を示せるようなプログラム開発を行っている。</p>
活動・事業の期間	活動の場合： 2008年から、年3回 事業の場合： 着工 年～竣工 年
以下の項目は、テーマ別テーブル選考のグループ分けの参考にしますので、必ず記入してください	
主に発表したいこと ※一つに○印	①調査や研究活動 / ②広報や啓発のためのイベント活動 / ③環境学習や体験活動④ 水辺の計画づくりや整備事業等への参加 / ⑤環境保全や回復の実践活動 / ⑥ “いい川”・水辺を実現した技術 ⑦その他 ()

川内川流域訪問日程案

10月6日 日程案 えびのから川沿いに下流へ

9:30 空港着

10:30 えびのインター

11:30 曾木の滝公園

12:30 曾木の滝公園で昼食

13:00 曾木の滝講演出発（途中、曾木発電所跡見学）

14:00 鶴田ダム管理所

国土交通省：九州地方整備局 鶴田ダム管理所 管理係
係長 松山 兼二氏、古中 直哉氏

15:00 鶴田ダム出発

15:30 べんきょうしつ モンシェリハウス 森脇さんに依頼済み

被災体験した子どもたち4名、保護者2名、柏原小先生2名（保護者）に森脇先生より声をかけていただき、森脇先生と保護者へのヒアリング

7日日程

9:00 鹿児島純心女子大学 川内川に関する出前講座視察

水害被害の紙芝居を大学（保育科）の授業で作成する。

その水害被害の状況を学生に川内川河川事務所長が講義説明を見学

11:00 河川事務所訪問（水害に強い地域づくり、激特被害について）

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所 調査課

課長 竹下 真治氏 専門官 野田 信幸氏、水防企画係長 松永 裕樹氏

13:00 災害場所視察（久住、山崎、虎居）

15:00 さつま町訪問：災害復興対策課、総務課交通防災係

被害対応を役場からの話を聞く

曾木の滝	モンシェリーハウスでの取材	
		

<川内川取材シート 平成20年10月7日>

【取材目的】

災害体験を持つ方々の貴重な生の声をプログラムづくりに生かし、
災害体験の無い方々へ、プログラムを通じてその想いを伝えたいと考えています。

【質問内容】

- ・ 「川内川水系水害に強い地域づくり」提言づくりにおいて、その過程では様々な住民、関係者の声があったのではないかと思います。
ご支障のない範囲で結構ですので、どのような意見の中から提言がまとめられたのかをお聞かせいただけますか？
- ・ 提言の作成後、地域の方々の意識や行動の変化は感じられましたか？
動きは始めている具体的な行動（取り組み）があればお聞かせください。
- ・ 災害箇所のご紹介（視察）は可能でしょうか。
- ・ 教育関係者（特に小学校）の先生から、今後の水害対策について何か意見や依頼はありましたか？
あればその内容をご支障のない範囲で結構ですのでお聞かせいただけますか？
（無ければ、子どもたちを対象とした水害訓練プログラム等はございますか？）

【取材内容】

滋賀からみて九州の災害はとても遠い感じがした。特に水害被害は同じ日本で起こっている災害であるのに知らない人が多く残念である。しかし現地に行くと被害の大きさのスケールの大きさも滋賀とは桁違いで、川も水もまた雨量も想像を絶するものがあった。

今回は川の日ワークショップでの紹介で川内川流域連携ネットワーク事務局NPO法人川内川生きものクラブ上野 豊氏の紹介で曾木ダムから曾木ダム事務所また子育て世代の取材のため小学生が集まる勉強室を紹介していただき親からの被害の状況と子どもの様子を聞かせていただきとても参考になった。

水害被災の親からの話で子どもの様子を聞いた中で、避難するときに置いてきたペットの亀が忘れられず亀を見るたびに思い出シトラウマになった子どもの気持ちは思わぬことで水害被害による傷つく子どもがたくさんいたということがわかった。

また避難する際に子どもが複数人いる親は持ち出す荷物にも配慮が必要でなるべく年少の子どもを持ち物例えばおしめやミルクなど避難所にあるとわかっていても用意したという話があった。

鹿児島純心女子大児童保育科授業風景	川内川河川事務所訪問ヒアリング	虎居地区視察
		

添付資料

川内川河川事務所通信

第78号 平成20年10月15日滋賀県のNPOが川内川を現地視察

せんだいがわ
Webマガジン

せせらぎ

滋賀県のNPO団体が現地視察に来所

来所者 NPO子どもネットワークセンター天気村 辻 充子 事務局長
流域連携支援事務局 上野 浩文 リーダー

今回の目的

水害体験の少ない若い子育て世代の親子を対象に、減災意識につながる防災トレーニングをプログラム化し、親子で遊びながら参加することで、親子が災害時にも戸惑うことなく、初期対応ができるような「心がまえ」への気づきを促すと共に、防災トレーニングプログラムづくり・試行、及び指導者養成に向けた手引きを行うため。

工 程 10月6日（月）

11:00 曾木の滝

13:00 鶴田ダム

14:30 モンシェリハウス（川内川流域NPO）

15:00 柏原小学校

10月7日（火）

9:00 鹿児島純心女子大学

11:00 川内川河川事務所

13:00 災害現場視察



川内川河川事務所にて

平成18年度の災害時の状況の説明から始まり、激甚災害対策特別緊急事業の採択、現在の工事の進捗状況や「川内川水系水害に強い地域づくり」に沿ったソフト対策の説明を行いました。滋賀県は、あまり水害にあったことがないようで説明に対して驚いて聞いていました。

現場では、当時の写真と見比べながら現在の工事の進捗状況や「まるごと町ごとハザードマップ」の現物をみてもらいました。電柱に表示されている当時の水位の高さに水害のすごさを認識されていました。

今回の視察が、今後のNPO子どもネットワーク天気村の活に少しでもお役にたてれば幸いです。

川内川河川事務所 調査課

野田 信幸



虎居地区を説明



ハザードマップを説明

NPO子どもネットワークセンター天気村

<http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/>

全体コーディネート：川内川流域連携ネットワーク事務局

NPO法人川内川生きものクラブ 上野 豊氏

協力：鶴田ダム管理所 松山 兼二氏、

古中 直哉氏

べんきょうしつ モンシェリハウス 森脇先生

保護者のかた

鹿児島純心女子大学

川内川河川事務所 九州地方整備局 川内川河川事務所

竹下 真治氏

野田 信幸氏、

松永 裕樹氏

さつま町役場 坂本 正己氏

萩木場 一水氏

お世話になりありがとうございました。

添付資料

親子で防災トレーニングに参加しませんか

災害は日頃の備えが大切といわれていますが、災害の備えといわれても、何をいったいどうしたらいいのか見当もつきません。

気軽に親子で防災(水害)への取り組みや避難における大切なポイントを学習して、日常的に減災への意識をもちましょう。



**災害時の避難のポイントを
おぼえておこう!!**

どんなことをするの？

実際の水害の様子を映像で見た後、大きなパラバルーン(大型バルーン)を使って、楽しく水害時の様子を親子で一緒に体験します。

また、水害時の避難における大切なポイントを、みんなで学習します。

日時:2月7日(土)10:30~12:00

場所:ウォーターステーション琵琶1F

滋賀県大津市黒津四丁目2-2(旧南郷洗堰側)

TEL: 077-536-3520

対象:未就学児とその保護者

その他:動きやすい服装でお願いします。



この事業は近畿建設協会地域作り支援事業での助成を受けています。

【実施団体】

特定非営利活動法人

NPO子どもネットワークセンター天気村

TEL077-564-7868 FAX077-564-7918

〒525-0033草津市東草津1-1-15

<http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/>

【実施協力団体】

琵琶湖河川レンジャー

事務局(tel) 077-536-3520

滋賀県大津市黒津四丁目2-2

(ウォーターステーション琵琶館内)

<http://www.water-station.jp/ranger/index.php>

添付資料

2月16日(月)

子育て世代の
防災力をアップしよう！！

子育て世代に必要な 防災力って何？

水害

子育て親子防災シンポジウム

防災意識の向上、地域における社会的役割の観点から自主防災の取り組みが各地で行われていますが次の世代となる、特に就学前の子どもを持つ親向けまたは子どもと一緒に参加できる防災へのアプローチは難しいとされています。今回は「災害（水害）に強いまちづくり」をめざし、子育て防災の取り組みをご紹介しながら子育ての視点から皆さんのご意見をお聞きする場とします。

日時:2月16日(月)13:00~15:00

場所:ウォーターステーション琵琶1F

滋賀県大津市黒津四丁目2-2(旧南郷洗堰側)

TEL: 077-536-3520

●パネラーの皆さん

国土交通省琵琶湖河川事務所	太田 年彦さん
滋賀県流域治水対策室	瀧 健太郎さん
草津市河川課	堀井 武彦さん
琵琶湖河川レンジャー	高田 拓朗さん
	原田 優美さん

子育て防災プログラム参加の方

●コーディネーター

石井布紀子さん (有) コラボねっと取締役

参加対象者:子育て防災または防災の取り組みに

ご関心をお持ちの方

参加費:無料(子どもの託児あります)

申し込み問い合わせ:下記の連絡先をお願いします。



2009年2月7日(土)

に行われた「おぼえておこう、
災害時の正しい避難方法

「親子で防災トレーニングに参加
しませんか」の様子。たくさん
の方々が参加されていました。

この事業は社団法人近畿建設協会地域作り支援事業での助成を受けています

●子育て親子防災シンポジウムに関するお問い合わせ

【実施団体】特定非営利活動法人

NPO子どもネットワークセンター天気村

TEL077-564-7868 FAX077-564-7918

〒525-0033草津市東草津1-1-15

<http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/>

【実施協力団体】琵琶湖河川レンジャー

事務局(TEL) 077-536-3520

滋賀県大津市黒津四丁目2-2

(ウォーターステーション琵琶内)

<http://www.water-station.jp/ranger/index.php>

水害時の対応 親子 ら理解深める 大津で防災シンポ



水害時のハザードマップを確認する参加者ら
(大津市黒津4丁目・ウォーターステーション琵琶)
琵琶)

子どもを持つ親が水害について考える「子育て親子防災シンポジウム」が16日、大津市黒津4丁目のウォーターステーション琵琶であった。県や市など行政機関の職員と一般参加者約20人が水害について話し合い、理解を深めた。

子育て支援をするNPO法人（特定非営利活動法人）「子どもネットワークセンター天気村」が開いた。

参加者は「滋賀は災害が少なく、非常時の想像ができない」「地震の避難場所は分かるが、水害の時はどこへ逃げればいいのか分からない」など水害時の不安や、「絵本などで災害の実例を事前学習できれば」といった要望など、さまざまな意見を交わしていた。

